

日本の書 — 和歌と詩のかたち

令和元年五月二十五日（土）～六月三十日（日）

1 寸松庵色紙「ゆふつくよ」 伝 紀貫之 平安時代（十一世紀）

同 箱および付属品

2 〇端白切（大式三位集断簡） 伝 藤原行成 平安時代（十一世紀）

3 〇石山切（貫之集卷下断簡） 藤原定信 平安時代（十二世紀）

4 中色紙 伝 藤原公任 平安時代（十二世紀）

5 〇戊辰切「竹」（和漢朗詠集卷下断簡） 藤原定信 平安時代（十二世紀）

6 〇戊辰切「鶯」（和漢朗詠集卷下断簡） 藤原伊行 平安時代（十二世紀）

7 三首歌切（古今集断簡） 伝 藤原家隆 平安～鎌倉時代（十二世紀）

8 〇白河切（後撰集卷第六断簡） 伝 西行 平安時代（十二世紀）

9 〇昭和切「藤波」（古今集卷第三断簡） 藤原俊成 鎌倉時代（十二世紀）

10 〇仮名消息 藤原俊成 鎌倉時代（十二世紀）

11 熊野懐紙 藤原定家 鎌倉・建仁元年（一一〇一）

12 二首懐紙 藤原定家 鎌倉・建仁二年（一一〇二）

13 和歌懐紙「夏日」 後柏原天皇 室町時代（十五世紀）

14 和歌懐紙「詠寝覚月」 後水尾天皇 江戸時代（十七世紀）

15 和歌短冊「二月余寒」 三条西実隆 室町時代（十六世紀）

16 和歌短冊「萩」 烏丸光広 桃山～江戸時代（十六～十七世紀）

17 障子之詠歌 冷泉為村 江戸・明和四年（一七六七）

18 春花図 賛 冷泉為泰・為章 江戸時代（十九世紀）

画 原在中・在明

19 葛下絵扇面散屏風 伝 本阿弥光悦 江戸時代（十七～十八世紀）

20 大和三景図 賛 江月宗玩 江戸時代（十七世紀）

画 松花堂昭乗

21 〇布袋図 賛 月江正印 元時代（十四世紀）

画 黙庵靈淵 南北朝時代（十四世紀）

22 偈頌 木庵性瑫 江戸・延宝八年（一六八〇）

23 一行書「雪月花」 後陽成天皇 桃山～江戸時代（十六～十七世紀）

24 七言絶詩 篠崎小竹 江戸時代（十八～十九世紀）

25 洗心洞詩 頼山陽 江戸・文政十年（一八二七）

26 大字「竹声松影」 貫名松翁 江戸時代（十九世紀）

27 和歌二行書「林蔭」 徳大寺公純 江戸時代（十九世紀）

28 七言二句屏風 住友春翠 明治三十二年（一八九九）

29 三十六歌仙書画帖 松花堂昭乗 江戸・元和二年（一六一六）

30 赤壁賦卷 法童坊孝以 江戸時代（十七世紀）

31 梓人伝巻 小島宗真 江戸時代（十七世紀）

32 和歌短冊「山雪」 木下長嘯子 江戸時代（十七世紀）

33 和歌懐紙「幽居鶯」 香川景樹 江戸時代（十八～十九世紀）

34 三十六歌仙色紙 飛鳥井雅章ほか 江戸時代（十七世紀）

35 三夕の和歌色紙 中院通躬ほか 江戸時代（十七～十八世紀）

36 古筆手鑑 奈良～江戸時代

* 〇は重要文化財、○は重要美術品です

1 寸松庵色紙 伝紀貫之

つらゆき
ゆふつくよをくら
の山になくしかの
こゑのうちにや秋
はくるらむ

2 端白切(大式三位集) 伝藤原行成

右兵衛督ともたふ頭なりし
ころ
おもふことくゝなるわれを春はかり
はなに心をつくるとや見る
かへし

たれもみな花のさかりはちりぬへき
なけきのほかのなけきやはする
おなし人くろとのかたにたち
あかしてつとめて
しるらめやまやのとのとあくるまで
あまそゝきしてたちぬれぬとは

3 石山切(貫之集) 藤原定信

わすられず恋しきものは春の夜の
ゆめのなこりをさむるなりけり
ねぬるよの夢はなみにも
あらなくにたちかへりても
人を見るかな
ほととぎす人まつやまに
なくなれば我もうちつけに
恋まさる
なり

なけきこる山と
我身のなり
ぬれは

こころのみ
こそ
いとなかり
けれ

4 中色紙 伝藤原公任

つるかめもちとせのゝ
ちはしらなくに
あかぬ心に
まかせはてゝ
む

5 戊辰切「竹」(和漢朗詠集) 藤原定信

竹
煙葉蒙籠侵夜色 風枝蕭颯欲秋声 白
阮籍嘯場人步月 子猷看処鳥栖煙 章孝標
晋騎兵參軍王子猷 裁称此君 唐太子賓客
白粲天 愛為吾友 篤茂
迸笋未抽鳴鳳管 盤根纒點臥龍文 前中書王
しくれふるおとはすれともくれたけの
などよとゝもにいろもかはらぬ

6 戊辰切「鶯」(和漢朗詠集) 藤原伊行

鶯
鶯既鳴兮忠臣待旦 鶯未出兮遺賢在谷 賈高
誰家碧樹 鶯鳴而羅幕猶垂 幾処
花堂 夢覺而珠簾未卷 晧賦
咽霧山鶯啼尚少 穿沙蘆笋葉纒分 元

台頭有酒鶯呼客 水面無塵風洗池 白
鶯声誘引来花下 草色拘留坐水边 白 春江
感同類於相求 離鴻去雁之応春囀 会異氣
而終混 龍吟魚躍之伴曉啼 菅三品
燕姬之袖暫収 猜繚乱於旧拍 周郎之簪
頻動 顧間関於新花 同上

新路如今穿宿雪 旧巢為後属春雲 菅
西楼月落花間曲 中殿燈残竹裏音 菅三品
あらたまのとしたちかへるあしたより
またるゝものはうくひすの声 素性
あさみとり春立そらにうくひすの
はつこゑまたぬひとはあらしな 麗景殿女御

7 三首歌切(古今集) 伝藤原家隆

みつね
つまこふるしかそなる女郎花
をのかすむのゝ花としらすや
をみなへしふきすきてくる秋風は
めには見えねとかこそしるけれ
たゝみね
人のみることやくるしき女郎花
あき霧にのみたちかくるらん

8 白河切(後撰集) 伝西行

同御時朱雀院のおみなへし
あはせに
おきかせ
おるからにわかなはたちぬ
をみなへしいさおなしくは
はなゝにみむ
たたみね
人のみることやくるしきを

みなへしあきゝりにのみ
たちかくるらん
あきのゝつゆにおかるゝおみなへし
はらふ人なみぬれつゝやふる

9 昭和切「藤波」(古今集) 藤原俊成

古今和歌集卷第三
夏歌

題しらす 読人しらす
わかやとのいけのふちなみさきにけり
やまほとゝきすいつかきなかむ

このうたある人のいはくかきのも
との人まろかなり
うつきにさけるさくらをみてよめる
きのとしさた 俊貞

10 仮名消息 藤原俊成

③これは
なにゝか
候
たかうなに
にて候へと
しろうく候

②すをわさとたひたるたに
うれしく候ほとに、このしろうく
候ものこそ、また八十
にあまるまで、えみさふら
はさりける、をかしく
候へ

①あの御ふみたまははり候ぬ
御てつからはあまりに候なん
人にてもかやうにおほせ
たまはりて候、うれしく候て

⑤うれしく候
⑥あなかしく
又まいらせさふらふ、かまへ
て、つたへまいらせおはしませ

さて、すのむかへにまいらせはやと

おもひ候しかとも、もし
やへもゝほとにおほえ
けるにや、つかひもありかたく
候ほとに、いまゝてとりにまいらせ
さふらはさりつるなり

されと、もゝのはなよりは
これは事のほかにまさり
てはおほえ候ものにて
身にとりては候なり

11 熊野懷紙 藤原定家

詠峯月照松和歌

左近権少将藤原定家
さしのほる
きみをちとせとみやまより
松をそ月のいろにいて
ける

浜月似雪

くもきゆるちさとのほまの
月かけはそらにしられて
ふらぬしらゆき

12 二首懷紙 藤原定家

詠二首和歌

左近衛少将藤原定家
山家擣衣
こぬひとをなをまつのと
にたきすさふしはく
秋の衣をそうつ

関路暁霧
こゑわふるこのしたや

みのきりのまに
ありあけしらぬあしか
らのやま

13 和歌懷紙「夏日」 後柏原天皇

夏日詠三首和歌

夕顔 無品勝仁親王
なをさりによそにそみつる
しつのめかしめゆふかほの
花のさかりを

瀬夏祓
人よ先神にもいのれ
みそきするあさき瀬にこる
水のこゝろを
恨恋

うくつらき人のこゝろの
程よりはうらみにつきぬ
ことの葉もあれ

14 和歌懷紙「詠寢覚月」 後水尾天皇

詠寢覚月

和歌
ゆめならてみし世の
事そおもほゆるね
さめの後の月にむ
かひて

15 和歌短冊「二月余寒」 三条西実隆

二月余寒 たちかへり雲風邪さむみから衣
きさらきの名もしるき空哉 堯空

16 和歌短冊「萩」 烏丸光広

萩 庭の面をのれとそよくおき原は
あき風よりや生はしめけむ 光広

17 障子之詠歌 冷泉為村

やよひ十日あまり
此庵りとひしかは
あるしはよし野の花
みにと
なんと
きょけれとしはし
やすらふ

事になん

さかでまで

あるしのるすの

庭桜と

桜に申して

かへる

18 春花図 冷泉為泰・為章（原在中・在明画）

瑠璃能瓶爾薰（瑠璃の瓶に薫）
光越佐新添貞（光をさしそへて）
富貴百花濃色（富貴百花の色）
葉美艶（はみえん）

露奈良伝成珠（露ならてなる珠）
籠耳折挿茂色（籠に折り挿すも色）
遠菜多類花農（をえたる花の色）
数賀寿（数かず）

20 大和三景図 賛：江月宗玩 画：松花堂昭乗

（岩橋図賛）
岩上布留路
青苔自不塵
高橋汲人跡
誰詣大明神

（観音堂図賛）
看来泊瀬幾
青峯風外杉
曾風外末夕日
西傾花落尽
観音堂裏一
声鐘

（二本杉図賛）

両樹風杉下

寂寥人不来

古河野辺水

勦絶世間埃

21 ◎布袋図 賛：江月正印 画：黙庵靈淵

三会龍華未廝当
長街短巷恣徉狂
布囊裏許乾坤大
拄杖頭辺日月長
兜率陀天乾屎橛
毘盧樓閣水雲郷
却言我是真弥勒
家醜無端向外揚
玉几 正印賛

22 偈頌 木庵性瑠

来
石上打眠還
打坐松澗行
去又行来
庚申春
黄檗木庵
書

泉屋博古館

住友コレクション

京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町二四

<https://www.sen-oku.or.jp/>

庭の桜を
たよりにそとふ
都人は嵯峨の
花をみにくる
嵯峨にすむ人は
よしのゝ花みにも
ゆく
いとうら山しき